

令和5年度実施事業 課題対応取組み一覧表

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	No.	カテゴリー	活動テーマ
北区	大淀	1	地域や専門職とのつながり等	早期相談出来る地域との関係づくりとランチの周知活動を行う
	梅田東	2	地域や専門職とのつながり等	実態把握・早期発見のための多機関を含めたネットワーク構築
	豊崎	3	地域や専門職とのつながり等	生活不活発病予防 ～個人から地域へ～
此花区	春日出	4	地域や専門職とのつながり等	社会から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。
西区	花乃井	5	社会資源の創設	地域高齢者の孤立予防と課題の早期発見に向けた取り組み
港区	港南	6	地域や専門職とのつながり等	要介護者を早期発見するためのネットワーク構築
	市岡東	7	地域や専門職とのつながり等	社会的孤立となっている高齢者やその世帯の支援
	築港	8	地域や専門職とのつながり等	孤独、孤立を予防しつながりを絶やささない。
浪速区	浪速	9	地域や専門職とのつながり等	医師会との連携強化を目指し、地域包括支援センターと協働して総合相談窓口の周知活動を行う。
	日本橋	10	地域や専門職とのつながり等	・地域との連携強化～早期対応していく為の体制づくり～
生野区	大池	11	地域や専門職とのつながり等	・高齢者の孤立化予防と支援が必要な高齢者の早期発見 ・地域住民が早期相談できる関係づくり
	生野東	12	地域や専門職とのつながり等	社会問題になりつつある、複合的な課題を抱えた世帯の支援について
	田島	13	地域や専門職とのつながり等	お困りごとの早期発見・相談に繋げるための相談窓口の周知活動
	新生野	14	地域や専門職とのつながり等	相談内容件数が多い認知症への取り組み ①総合相談窓口(ランチ)の周知活動 ②地域にお住まいの方に対する、認知症予防についての啓発
	新巽	15	地域や専門職とのつながり等	地域の実態把握と総合相談窓口(ランチ)の周知活動 高齢者の孤立化の予防
阿倍野区	昭和	16	社会資源の創設	認知症の人や地域の方など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」の構築を目指して
住之江区	加賀屋	17	地域や専門職とのつながり等	地域関係者との関係構築。あつたかネット推進員と協力し地縁団体、関係者と各地域の困りごとなど共有できる場を作り関係強化に取り組む
	新北島	18	自立支援・介護予防・健康づくり等	かなえる体操・出前相談
東住吉区	矢田東	19	地域や専門職とのつながり等	早期相談につながるためのネットワーク作り
	白鷺	20	地域や専門職とのつながり等	地域支援機関との協働の中で「日常生活の困りごと」に注視し支援にあたる。 要支援・介護の「はざま」で生活されている方々への身近な相談窓口として活動していく。
	矢田西	21	認知症高齢者等の支援	地域高齢者との顔の見える関係性の構築に向けて
西成区	天下茶屋	22	地域や専門職とのつながり等	ひとり暮らし高齢者の生活課題の早期発見・対応
	山王	23	社会資源の創設	続～地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る～
	成南	24	自立支援・介護予防・健康づくり等	地域の特徴を生かした介護予防
	梅南・橘	25	社会資源の創設	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」
	南津守	26	地域や専門職とのつながり等	高齢化が進む地域への支援体制の構築
	あいりん	27	社会資源の創設	ひとり暮らし高齢者の居場所づくり、社会参加支援

課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月3日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	早期相談出来る地域との関係づくりとランチの周知活動を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らし高齢者世帯の割合が高く、ご近所付き合いもないため、認知症や病気、困り事に気づく事が難しく、自らの訴えも少ない。よって状況に気づいた時には悪化しているケースが多い。 ・家族関係が希薄となり、後見人制度が必要なケースが増加しているが、本人や周囲への理解が得られず繋がるまでに時間を要する。	
対象	中津、大淀西・東地域に在住の高齢者	
地域特性	【中津】：大阪駅まで徒歩圏内にある。M10の地下鉄、市バス、阪急もあり交通の利便性は良い。近年は商店街の活性化が進んでおり、若年層世帯も増加している。一方では長屋も多く昔から、住み続けている住民も多い。地域活動が活発な地域で世代間交流も活発である。 【大淀東】：梅田、福島に隣接しており、スカイビルを中心に企業が多く集まっている。「うめきた再開発」やタワーマンションの建設により様々な世代が転入している。 【大淀西】：昔からの印刷業が栄えていた街並みで買い物等、福島区を拠点とする人が多い。地域活動は活発で住民同士の繋がりは強い。	
活動目標	・地域包括支援センター（以下「包括」という）・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の機能の周知及び情報提供を行う。 ・地域住民との繋がりを大切にし、顔の見える関係作りを構築する事で相談の早期発見、解決に努める。 ・他の関係機関との連携を深め相談の窓口を広げていく。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域住民からの直接の相談においては主に介護保険制度に関する事が多くあった。大阪市の「ハートページ」を利用し、複雑な制度をわかりやすく説明する事を心がけ、関係機関へと繋いだ。 ・大淀西地域活動協議会主催の百歳体操後の「歩行分析 & お勧めの運動紹介会」を開催 令和5年10月～令和6年3月まで計6回実施（1回は6名程度） ・大淀東地域の「大淀北住宅集会所」の活用の一貫として北区社会福祉協議会の見守り相談室と連携し「なんでも相談会」北住宅の住民向けに開催：令和5年11月19日 ・大淀東地域の認知症カフェ「ほっと一息ひだまりカフェ」に施設入居者に来て頂き焙煎コーヒーを温かい雰囲気の中で飲んで頂く。：令和6年2月より実施(以後、月1回ペースで継続予定)	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・介護保険サービスに繋ぐ事により、在宅生活を継続する事ができ、介護をしている家族の負担軽減にも繋がっている。又、ケアマネジャーに繋ぐ事で身近な相談窓口ができ、不安軽減にも繋がっている。 ・地域の定期的な活動に共に参加することにより、身近な相談窓口がある事を再認識してもらうことができた。 また、コロナによりしばらく行えていなかったが、認知症カフェに施設の入居者の参加が再開された。入居者は毎月1人から2人程度ではあるが、地域住民が認知症について積極的に勉強したり、認知症の人の社会参加を応援しているような「温かい空間」ができつつある。	
今後の課題	・今後は社会福祉法人として地域の活動に関わりを持ち、「地域貢献」を引き続き継続していく。 ・大淀東地域の認知症カフェへの参加を継続することで認知症になっても、施設に入っても地域で楽しめる居場所がある事を地域住民に周知して頂く機会を作る。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月16日(火)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ブランチ担当者が新たに変わったが、身近な相談窓口としてランチが認識してもらえるよう、地域の定期的な活動に参加し、ランチ活動の周知啓発に励んだ。 地域と法人のデイサービスとの協働により、AIを使った歩行分析・お勧めの運動紹介会という住民の興味を引く独自の取組みを行ったことも評価できる。 今年度よりランチとしての活動は休止となったが、法人として引き続き地域活動にもご尽力いただきたい。

課題対応取組み報告書

名称	北区梅田東地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月1日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	実態把握・早期発見のための多機関を含めたネットワーク構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症高齢者や身寄りのないひとり暮らし高齢者が孤立した状態で生活している世帯が多く、支援が必要なケース発見及び介入が難しい。 ・マンション居住高齢者や既存の地域活動に参加していない方の実態把握が難しく、早期発見・介入のために多様な関係機関とのネットワーク構築が必要である。	
対象	住民、マンション管理会社・管理組合、郵便局、医療機関、民生委員、地域福祉コーディネーター等	
地域特性	・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。 ・担当6地域では高齢者人口や地域活動参加による予防意識に差があり、梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、百歳体操やふれあい喫茶、食事サービスなどの地域活動も活発である。堂島・中之島地域は合同で百歳体操やふれあい喫茶等を実施しているが、中之島地域からの参加者は少ない。菅根崎地域は高齢者人口が少なく地域活動自体が少ないが、コミュニティセンターが新規移転し新たな活動が検討されている。	
活動目標	・潜在化する高齢者のニーズ発見のため、マンション管理人室をはじめ、高齢者の利用が多い郵便局や医療機関へ総合相談窓口 (ランチ) (以下「ランチ」という) の周知を行う。 ・扇町市営住宅の高齢者の見守り活動継続について、北区地域包括支援センター (以下「包括」という)、民生委員、地域福祉コーディネーターと検討実施する。	
活動内容 (具体的取組み)	1.高齢者支援のネットワーク構築 ①マンションアプローチ ・過去に個別相談があったマンションや、築10年以上経過しているマンション・アパート等を中心に訪問し、ランチの役割説明、「ランチからのお知らせ」、「ランチチラシ」の掲示や配架依頼、住人の近況確認などを行った。 訪問件数：24棟 延べ41回 ・マンション単位で開催されている百歳体操に定期的に参加し、管理人・住人との関係づくりを継続中。 ・過去に相談があった管理人の居ないハイム・アパート・マンションへ「ランチチラシ」のポスティング実施。 ・梅田東地域のマンション集会所にて講演会「介護保険制度」、「ランチのご案内」を開催。 全2回、合計30名の参加。 ②郵便局訪問 R2年度から実施している郵便局訪問を継続した。認知症高齢者や潜在的ニーズの早期発見のため、高齢者が多く訪れる郵便局を訪問し、「ランチからのお知らせ」や「ランチチラシ」の提供と設置依頼を行った。周知を継続的に行うことで局員との相談ネットワーク構築を目指している。 訪問件数：5局 延べ7回 ③医療機関訪問 総合相談を通じて高齢者が通院している診療所・病院をリストアップし、ランチへ直接相談がもらえるよう「ランチチラシ」を配布し周知活動を行った。 訪問件数：10件 延べ12回 ④地域関係者とのネットワーク構築と高齢者実態把握 ・済美、北天満民生委員協議会、中之島役員会に参加して情報交換 ・梅田東、北天満、済美のふれあい喫茶、食事サービスにて女性会、地域福祉コーディネーター、住民と交流 ・梅田東、北天満、済美の百歳体操前に血圧測定・健康相談を実施 ・堂島、中之島の10分脳活 & 出張相談 2.北天満小地域ケア会議 (扇町市営住宅) ・全2回開催、参加者は民生委員・地域福祉コーディネーター・北区包括・見守り相談室・ランチ。各機関で見守りをしている状況の共有と活動方針の検討を行った。 ・「敬老の日70歳以上世帯訪問」を実施、9月に地区担当の民生委員とともに訪問、「ランチチラシ」を配布し周知活動を行った。33世帯39名を訪問。	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>1.個別ケースで定期的に見守りをしているマンションについては、管理人との関係性を継続でき、国民健康保険の加入や介護保険申請等に繋がられている。百歳体操に定期参加しているマンションでは、参加している住民から介護保険申請の相談を受けたり、管理人と気になる高齢者の情報共有ができるなど、周知の効果が出てきている。梅田東のマンションでは集会所で介護保険制度の説明やランチの活動に関する講演会を実施できた。郵便局員から個別ケースの相談は無かったが、中崎郵便局では「ランチチラシ」や「ランチからのお知らせ」、講演会ポスターなどを掲示してくれている。浪速郵便局では入口近くに「ランチチラシ」を配架、「ランチからのお知らせ」も来局者の目の届くところに置いて頂いた。診療所・病院訪問では、昨年周知を行った所では「ランチチラシ」を配架してくれていた。支援者不在の高齢者に関して退院後の相談依頼を受けるなど、周知の効果は徐々に出ていていると感じた。地域活動や民生委員協議会へ参加することで、今年度は地域福祉コーディネーター、民生委員、地域住民からの相談が増加した。</p> <p>2.北天満小地域ケア会議（市営住宅）では、「敬老の日70歳以上世帯訪問」により新たに定期的訪問して見守りを行う対象者を発見することができた。また、民生委員、地域福祉コーディネーター、見守り相談室、北区包括、ランチで役割分担して見守り継続を行っている。</p>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションアプローチや地域活動への参加、郵便局や医療機関への周知活動を継続し、様々な機関や関係者と連携し潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者が多い扇町市営住宅の小地域ケア会議を継続し実態把握と見守り活動を行う。また北天満地域は相談件数が多いため、市営住宅に留まらず北天満地域全体の実態把握の方法を検討する必要がある。 ・曽根崎コミュニティセンターで地域活動がスタートしており、地域福祉コーディネーターも新たに配置されているため、定期的に参加して地域関係者や住民との関係づくりを行う。
<p>※以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター運営協議会開催日</p>	<p>令和6年7月16日（火）</p>
<p>専門性等の該当 (※該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目（特性） についてのコメント</p> <p>* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。</p>	<p>マンションアプローチ、地域活動や会議、郵便局や医療機関等、数多くの関係機関へ足を運び、顔の見える関係の構築ができている。このことにより、地域からの相談も増え個別ケースの支援にもつながっており評価できる。</p> <p>法人の強みも生かし、保健分野とも協働した活動をすることで、効果的な相談支援ができている。</p> <p>今後も積極的な地域活動を継続し、相談の少ない地域においても支援が必要なケースの発掘に努めてほしい。</p>

課題対応取組み報告書

名称	北区豊崎地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月8日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	生活不活発病予防 ～個人から地域へ～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域のつながりも少ない高齢者が認知症などにより金銭管理などができなくなる。 「介護する家族がない」、「介護負担を担えない」、「関係が悪く支援する気がない」といった事情により家族の支援も望めないケースが見られる。 本人が施設入所を希望しない、介護保険サービスの利用に拒否ぎみだと介入が難しくなる。 孤立している高齢者が増加し、その発見も難しくなった。	
対象	本庄・豊崎地域の高齢者	
地域特性	本庄・豊崎両地域において流動人口が増加している。高齢化率自体は低くなっていても、高齢者人口は増えている。 住民の9割がマンションに居住している。新たに大規模マンションも建設されており、住民の転入・転出も活発になっている。 そのため、地域のネットワークが分散しており、地域とのつながりが少ない高齢者が存在している。	
活動目標	高齢者自身のフレイル予防の意識を高めてもらう。 また地域への関心を高めてもらい、生活困難な高齢者の発見機能を強化する。	
活動内容 (具体的取組み)	前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行期に行っていた自宅でもできる運動のチラシについて、大淀老人福祉センターや豊崎会館や本庄会館に掲示するとともに持ち帰り用に置かせていただいた。このチラシへは、デイサービス職員が実際に運動のやり方を説明している動画を撮影し、インターネットの動画配信サイトに登録したQRコードを掲載した。 UR都市機構のマンション自治会において、百歳体操を支援した。また、北区認知症初期集中支援チーム（以下「北区ハートフルオレンジチーム」という）の主催で、認知症予防を目的とした「運動習慣が認知症予防に効果的」といった内容の講演会を開催した。 本庄会館では、月ごとに開催されていたふれあい喫茶に併せ、地域の相談会を開催した。開催に併せ、周知のチラシを作成し地域の会館に貼り出したり、大規模マンションにポスティングを行った。 また、朝の登校児童の見守り隊に参加し、散歩している高齢者や出勤途中の住民に対して声掛けや相談会の案内を行った。相談会では、北区ハートフルオレンジチームとの連携が必要になるなど、深刻なケースの相談も寄せられた。 さらに、地域の食事会や百歳体操にも参加し、総合相談窓口（ランチ）の周知とともに熱中症や詐欺被害、虐待などについての注意喚起を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○昨年度までに作成した6種類の「自宅で取り組める運動」のチラシについて、ケアマネジャーを通して、自宅に引きこもりがちで体力に不安がある高齢者に対して配布を行った。「こんな風に運動したらいいの？」と興味を示していただいた。 ○UR都市機構のマンションの百歳体操については、集会場の広さの観点から、広く告知することはせず、一部の住民に対する開催となった。認知症予防を目的とした講演会では、「運動と脳の関係」について話をさせていただいた。「日頃行っている運動は体だけではなく頭にもいいのね」との感想が寄せられた。 ○本庄地域相談会は、ふれあい喫茶と併せて、ほぼ毎月開催した。過去に支援していたが本人都合で支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後に向けて介護保険について教えてほしい」と新規相談の方、また入所する施設を探している方など、普段なかなか相談に来られない方が相談に来られた。 相談会のチラシが各町会の掲示板に貼り出されるなど、地域資源として活用され始めるようになった。 ○朝の見守り隊への参加では、散歩していた高齢者や同居している高齢者を介護している家族に対して、相談会の告知を行った。また見守り隊の方達にも相談会への告知を行い、心配な様子的高齢者に対してもチラシを渡してもらうよう依頼した。見守り隊の方達からも「心配な高齢者」について情報が寄せられるようになった。	
今後の課題	高齢者に健康への意識を高めてもらう必要があり、百歳体操や認知症予防の講演、朝の声掛けや相談会を通して意識づけを継続的に行っていく必要がある。UR都市機構のマンションの百歳体操については今後も継続していけるよう支援していく。 本庄地域の相談会については、今年度より土曜開催となり、多くの住民がより参加しやすくなった。ふれあい喫茶に参加されている方達にも積極的に声掛けを行い、周知を行っていく。また、大淀老人福祉センターや豊崎地域での活動に広げていきたい。 以前地域住民向けに施設内で行っていた「健康チエア体操」について、再開させたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和 6年 7月 16日 (火)

専門性等の該当
(※該当個数は問わない)

地域性 継続性 浸透性・拡張性 専門性 独自性

評価できる項目（特性）
についてのコメント

*今後の取組み継続に向けて、区
地域包括支援センター運営協議会
からの意見等を記載。

地域での相談会や、朝の見守り隊での活動を継続して行い、地域でのネットワーク構築や新たな相談にもつながっており評価できる。

法人の多職種とも連携して作成した自宅で取り組める運動の動画やチラシは、引きこもりがちな高齢者へのアプローチのツールとしても、継続して活用している。

今後は、一部の地域で活発に行っている、見守り活動や相談会について、他地域にも発展できるよう期待する。

課題対応取組み報告書

名称	此花区春日出地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月20日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	社会から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・権利擁護支援が、地域支援関係者に理解してもらえていない	
対象	西九条地区民生委員児童委員協議会	
地域特性	春日出地域総合相談窓口の担当圏域は春日出中学校区である。 担当圏域内の高齢化率は西九条地区が28.9%、梅香地区が28.4%、春日出地区(春日出中、春日出南)が23.8%となっており、担当圏域内平均は27.0%である。(此花区全域は27.2% 令和2年の国勢調査より) 公民館、憩いの家、集会所などの利用状況はコロナ禍を経て活発になってきており、西九条駅付近にはクレオ大阪西や此花会館梅香殿、此花スポーツセンターなど、社会福祉施設や文化施設等がある。 戸建ての空き家が増加している様子が見られ、一方で新しいマンション建築が目立つようになっている。	
活動目標	権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。	
活動内容 (具体的な取組み)	権利擁護支援講座「知って備える～おひとりさまに必要な3つの終活～」 1.医療・介護に備える 2.認知症に備える(成年後見制度) 3.ご逝去後に備える (10月20日事前説明、11月25日開催) ・おひとりさまの本人が困らないように備えておいた方が安心なこと、また支援する人など周りの人にとっても安心となるように備えておいた方がよいことの3つの終活(医療介護、認知症、ご逝去後)についての講座を開催した。 参加者：西九条地区民生委員児童委員8名 協力：此花区南西部地域包括支援センター (以下「包括という」)	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	権利擁護支援の重要な視点として、地域で自分らしく【安心】して暮らす権利の保障がある。その本人(おひとりさま)を唯一無二のかけがえのない人として、その存在自体を認め最大限に尊重し、地域での支援や社会関係を活用する。こうした【安心】を基軸とした内容の講座に「任意後見制度や遺言状等についてもう少し詳しく知りたい」「自身の問題意識が足りない」等の意見が上がり関心の高さを知ることができた。 また、「金銭的に厳しい人には、その人に合った制度を利用してもらえる方法を考える」等の気づき、感想に基づいて、今後の民生委員協議会活動に活かそうであるとの声を得ることができた。	
今後の課題	課題対応取組み自体が2回目であり、権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図り、ネットワーク構築の講座を、1回目の昨年度に続き継続して実施した。地域を基盤とした支援において権利擁護の予防的支援は重要な機能の一つとして位置づけられ、参加者からの関心も高いので、今後も計画的に継続性をもって取り組んでいく必要がある。 地域支援関係者は民生委員児童委員協議会だけではなく、連合振興町会、長寿会など幅広い。今後は地域に根付き存在が浸透している包括からのスーパービジョンを受け、春日出地域総合相談窓口としての役割や特性を精査し、次年度(3回目)の実践としていきたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月19日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・前年度から地域のニーズを拾い上げ、民生委員児童委員と連携するなど地域に根差した取組みであり、地域性にあてはまる。 ・今までしてきたことを深化させ、計画的に取り組みを進めており、継続性にあてはまる。

課題対応取組み報告書

名称	西区花乃井地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月18日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域高齢者の孤立予防と課題の早期発見に向けた取組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	マンションが多いことにより住民同士のつながりが形成されにくく、特に高齢者は孤立しやすい状況にある。後期高齢者の多くはひとり暮らし高齢者・高齢者世帯であり、後期高齢者になると相談が増加する。	
対象	江戸堀地域、広教地域在住の高齢者	
地域特性	大阪市内では高齢化率が最も低い区であるが、近年、西区に転入する高齢者が増加傾向にある。マンションが新しく建設される一方で、築年数が古く高齢者が多く居住するマンションもある。マンションは匿名性が高く、住民同士のつながりが形成されにくいいため、高齢者が孤立しやすい状況にある。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者の参加の場、地域高齢者同士の交流から孤立予防や生きがいがづくりの機会をつくる。 ・地域高齢者と交流する機会をつくり、総合相談窓口の周知や、課題の早期発見につなげる。 ・活動内容に独自性を見出し、参加意欲の向上を目指す。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日10時～11時に開催。 ・いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操、その他、簡単な脳トレやオリジナル体操を実施。 ・ランチ伝言板を配布し、総合相談窓口の周知。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回15名程度の参加があり、年間延べ682名が参加。 ・参加意欲の維持・向上のため、オリジナル体操を作成、百歳体操の後に実施。 ・参加者同士で誘い合わせての参加があり、参加者より「ここに来たら皆に会える」と地域高齢者同士の交流の場となっている。 ・活動の前後に簡易な相談があり、早期解決のきっかけとなっている。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者が主体的に関わることができる内容を検討する。 ・引き続き参加意欲を維持するしくみを検討し、継続した参加を促す。 	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月11日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が主体的に関わることができる内容を検討していただき、継続して参加できる取組みを今後も期待する。 ・百歳体操など参加できる場の周知を積極的にしていただきたいと思います。 	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

課題対応取組み報告書

名称	港区港南地域総合相談窓口
提出日	令和6年7月2日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	要援護者を早期発見するためのネットワーク構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①8050, 9060などの多問題ケースが増加。 (地域と専門機関の連携による要援護者の早期発見と支援介入をいかにスムーズに行うか) ②支援におけるそれぞれの立場での役割の理解。 (支援についての意見交換を活発にできる関係を築くことで、利用者の最善の利益につながる)	
対象	①地域の高齢者 ②地域の支援関係者と支援機関	
地域特性	【市岡地域】高齢化率は22%で、港区全体の高齢化率27%と比較すると、新しいマンションやファミリー向けの新しい戸建てが立ち並び地域もあり、高齢化率は緩やかである。一方、昔からの古い集合住宅も残っている。ネットワーク委員会、民生委員協議会などの地域支援者の活動が活発である。43号線やみなと通りなど大きな道路に囲まれており、車の往来が激しい。 【田中地域】築年数の古い集合住宅、戸建てが点在している。高齢化率は26%で、市岡地域と比較すると高い。朝潮橋駅があり、スーパーやコンビニ、診療所も多く、生活至便な地域である。 (高齢化率：令和5年3月末時点 大阪市統計 大阪市住民基本台帳より)	
活動目標	①小さなことでも気軽に相談できる関係を築くことで、要援護者の早期発見を目指す。 ②地域と専門機関のそれぞれの強みを活かし連携できる体制づくりの構築。	
活動内容 (具体的取組み)	①地域で開催されている、いきいきサロンや喫茶、配食サービス等に参加し、定期的な情報交換を行った。 ②地域行事で、地域住民からの相談対応や行事終了後の見守り訪問などを行った。 ③月に1度港区社会福祉協議会にて開催されている地域見守りコーディネーター連絡会への参加、担当圏域内外の地域見守りコーディネーターと連携体制の構築と情報交換を行った。 ④地域包括支援センター連絡会に参加した。 ⑤港区3総合相談窓口(ランチ) (以下「ランチ」という) で定期的に情報交換会を開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域行事に積極的に参加することで、地域関係者と顔の見える関係を構築し、地域のニーズや実情についての情報を把握することができた。 ②地域住民の口コミにより、ランチへの来所相談があるなど、気軽に相談できる窓口としての周知効果があった。 ③担当圏域内外の情報を共有することにより、地域ごとの違いやニーズ、それぞれの強みなどを知ることができ、担当圏域での支援に活かすことができた。 ④包括との連携体制を強化することができ、情報共有やそれぞれの役割、他機関との連携などについての意見交換を行うことで、スムーズな支援ができた。 ⑤港区の3ランチで顔の見える関係を構築し、港区全体の情報共有や地域との連携、ランチの役割などについて意見交換を行い、担当圏域の支援に活かすことができた。	
今後の課題	・対象者の課題が大きくなってから相談機関に連絡がくるケースがあり、引き続き包括・ランチの存在とその役割や連携方法についてのさらなる周知が必要。 ・要援護者の把握や発見後、要援護者が住み慣れた地域で生活していくために、地域支援の有効な活用方法についての検討とその継続的な見直しが必要。 ・町会未加入者や転居してきた方など、町会で把握しにくい地域高齢者住民の把握。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和6年7月26日(金)

専門性等の該当
(※該当個数は問わない)

地域性 継続性 浸透性・拡張性 専門性 独自性

評価できる項目（特性）
についてのコメント

* 今後の取組み継続に向けて、区
地域包括支援センター運営協議会
からの意見等を記載。

地域性と継続性が特に評価できる。
・早期発見・介入の為相談会や早い対応にて声の拾い上げが行われ今後活動の効果が期待できる。
・課題が大きくなってからの相談に対し、予防の観点や前もって不安をうかがう等周知の仕方を変えてはどうか。
・皆で見守るシステムづくり・スキルアップに向け包括も交え体制の検討・関わり方に困っている部分をピックアップし勉強会の企画は有効ではないか。
・個人情報と地域活動に対しては支援者からの困りごと・困る場面・目指す関わりを整理してからルールを検討してはどうか。
・住民便利帳や地域の相談先チラシの配布という形で住民との繋がりがどうか。
・口コミにより、相談につながり、周知効果があることが評価できる。
・包括との連携強化により、他機関連携につながったことがよかった。
・一人であるにも関わらず積極的に多方面に関係して要支援者を早期発見している。さらに前向きに取り組んでいた
ければよい。

課題対応取組み報告書

名称	港区市岡東地域総合相談窓口
提出日	令和6年7月4日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	社会的孤立となっている高齢者やその世帯の支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・同居世帯については見守りの意識が希薄になりがち。潜在化している可能性がある。 ・8050世帯のこども世代が支援につながりにくい。 ・ケアマネジャーやサービス提供事業所と協力し、役割を明確にする。地域の方との連携方法の検討。	
対象	地域の孤立している高齢者とその世帯	
地域特性	担当圏域：波除地域 (波除、市岡元町)、南市岡地域 (南市岡1丁目、2丁目) ・波除地域 高齢者人口：3,051名 65歳以上のひとり暮らし世帯：1,237世帯 ・南市岡地域 高齢者人口：756名 65歳以上のひとり暮らし世帯：345名 (2024年4月1日時点 認知症高齢者等の実態把握のための資料より)	
活動目標	社会的に孤立している高齢者やその世帯の支援のための多機関連携の実施	
活動内容 (具体的取組み)	・地域で見守りを行なっている地域見守りコーディネーター会議への参加 ・民生委員向けのワークショップに参加し、普段活動されている様子や思いなどを聞き、意見交換を行なった ・地域支援事業(4事業) 連絡会への参加 ・相談支援機関の連携・協働のための研修に参加 ・法人主催・総合相談窓口(ランチ) (以下「ランチ」という) 共催の地域活動、車いすの無料貸与を行なった ・3ランチ情報交換会の実施	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域包括支援センター、地域見守りコーディネーター、地域ネットワーク委員、民生委員、地域住人、ランチで協働して見守り、支援を行ったケースがあった。 ・高齢者のことだけでなく、その家族の支援も含め医療機関、ケアマネジャー、介護保険事業者、区役所(高齢者福祉担当) 区保健福祉センター保健師、認知症初期集中支援チーム、地域見守りコーディネーター、障がい者基幹相談支援センター、見守り相談室、くらしのサポートコーナー等へ相談、連携して支援を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大により地域活動が中止、健康・認知症予防のチラシを配布した。 ・港区内の3ランチで顔の見える関係を構築し、現状把握、連携を図った。	
今後の課題	・すぐにサービス利用につながらないケースも多いため、多機関で協働して見守り等を行なうシステムの構築が必要である。 ・多機関連携のために支援者個々のスキルアップが必要である。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月26日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	・地域性・継続性・浸透性が評価できる。 ・多職種と連携しケースアプローチが細やかに行われており今後も期待できる。 ・皆で見守るシステム作り・支援者のスキルアップに向け、多職種との連携ケースを3ランチで共有している。成功例から関わり方のパターンづくりや役割等マニュアルのような物を作成してはどうか。 ・高齢者だけでなく、その家族支援も含めて各機関と連携を行い支援しているのがよかった。 ・課題として出ている、多機関で協働して見守りができる良い手法をみんなで前向きに考えていきたい。 ・一人であるにも関わらず積極的に多方面に関係して要支援者を早期発見している。さらに前向きに取り組んでいただければよい。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	港区築港地域総合相談窓口
提出日	令和6 年 6 月 28 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	孤独、孤立を予防しつながりを絶やさない。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	圏域内は市営住宅や単身者向け賃貸住宅が多く、ひとり暮らし高齢者の占める割合が高い。ひとり暮らしであるためキーパーソンが疎遠又は不在で、その場合に介入までに時間がかかることが多かった。特に認知症がありながらひとり暮らしである方には、専門機関へつなぐなどの他、地域の方々の見守りと協力が欠かせない部分である。 認知症の人、その介護に携わること家族への理解を地域の方々に深めていただくこと、金銭管理に課題がある方の意思決定支援が必要かと思われる。 いきいきサロンや配食サービスなどを通じての安否確認が今後も重要である。 地域見守りコーディネーターからの相談も増えており臨機応変に対応していく必要がある。	
対象	圏域内の住民	
地域特性	高層を含め市営住宅が多く、高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準である。 ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りコーディネーターとの繋がりも強い。 65歳以上人口に対するひとり暮らし世帯の割合 (港晴45.1%築港43.4%) が高い。	
活動目標	地域関係者や専門機関など身近な社会資源との連携を深め協働して支援する体制を構築する。 認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見、早期対応、介護保険を初めとする適切なサービスや社会資源につなげる。	
活動内容 (具体的取組み)	R5年度はラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事サービスや各種サロン活動への積極的な参加とともに、民生委員と協働して地域高齢者への個別訪問に取り組んだ。 定期的に「ランチだより」を発行し、集会での配布や会館での設置、新聞折り込みによる地域への配布を行い当職の周知に努めた。 支援困難ケースに関しては相談初期から地域包括支援センター (以下「包括」という) や認知症初期集中支援チーム等と連携し協働して支援にあたった。 また、包括と協働して地域からの需要の高い出張無料相談会の再開への準備をすすめている。 港区内総合相談窓口 (以下「ランチ」という) 情報交換会を行いランチ職員のスキルアップ、情報交換、連携強化を図った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「築港ランチだより」の定期発行を2か月に1回行った。ランチのチラシ、新聞折り込み、デイだより、ランチだよりの配布などを通じてランチ周知に努めた。 包括と協働して若年層の福祉教育に力を入れた。築港小学生の生徒さんを対象に車椅子体験を行ってもらい、福祉の考え方、助け合う大切さを学んでもらった。身近で起こった高齢者を狙った詐欺被害への注意を促すため啓発チラシを地域の方々に配布し注意喚起を行った。 また、能登半島地震発生後すぐ、地震への備え注意事項などを書いた啓発チラシを配布した。	
今後の課題	まずは課題の発見が手遅れにならないようにできることを行う。より複雑化、深刻化する課題に対して困っている人なるべく早く発見する。 相談受付 (生活環境を把握する目的で可能な限り訪問する) →課題分析→外部機関とのチーム形成→振り返り分析につなぐスピードが求められる。 声をあげられない方に対するアウトリーチ手法について、ランチがより身近な機関、相談にのってくれる頼りになる存在となれるよう、地域からの情報が集約され活用していただける社会資源としての存在価値を高めていく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和6年7月26日(金)

専門性等の該当
(※該当個数は問わない)

地域性 継続性 浸透性 専門性 独自性

評価できる項目（特性）
についてのコメント

* 今後の取組み継続に向けて、区
地域包括支援センター運営協議
会からの意見等を記載。

・地域性・継続性・拡張性・独自性の面で評価できる。
・高齢者率が高い地域、孤立防止や認知症を専門機関につなぎ、また地震の際のチラシなども評価できる。
・高齢化・ひとり暮らし・認知症の地域課題に対し真摯に取り組んでおり活動参加、多職種との連携、学校教育、防災と多彩な視点での地域支援を評価する。
・身近な総合相談としてランチの存在は大きい。ランチでの活動の工夫や包括との連携、3ランチでの取組みがランチの意義・価値を高めていけると思う。今後の更なる活動に期待したい。

課題対応取組み報告書

名称	浪速区浪速地域総合相談窓口
提出日	令和6年7月10日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	医師会との連携強化を目指し、地域包括支援センターと協働して総合相談窓口の周知活動を行う。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	家賃滞納、ライフライン停止などで、ようやく支援が必要な対象者が顕在化する。	
対象	医療機関、地域住民	
地域特性	浪速地域：市営住宅の集合地域。市営住宅には古くから住み続けている人も多く、高齢化が進んでいる。ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多い。 大国地域：ワンルームマンションで暮らし高齢者が多い。古くから住む住民も多いが、住民の流入が多く、転入してきた高齢者は孤立しやすい。	
活動目標	① 医療機関との連携を強化するため、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を地域包括支援センター（以下「包括」という）と協働して進める。 ② 早期対応に繋げるため、支援が必要となる前の段階の住民にイベントや介護予防事業等を通じてアプローチする。	
活動内容 (具体的取組み)	①-1 三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）が主催する「第35回浪速区健康展」の開催と、「令和5年度認知症講演会」の開催に向けて、包括と協働して開催に協力し、ランチの周知活動を行った。 ・第35回浪速区健康展 包括・ランチブースにて、脳トレクイズと啓発物品の配布を行った。来場者からの相談を受け付け、総合相談にもつながった。 ・認知症講演会の開催に向けて、実行委員として参加した。講演会1部の内容について、包括と事前に話し合った。 ①-2 近医に出向き、ランチの周知に伺った。 ②-1 元気なうちから周囲との繋がりがづくりを進めるため、百歳体操、わにならなにわ健康塾、地域のふれあい喫茶、施設ボランティア、区内のイベント等の参加へ繋いだ。 ②-2 地域で開催している百歳体操で、「包括ランチニュース」の配布や各種案内を行い総合相談窓口の周知を図った。また、ランチの認知度は徐々に上がっているものの、担当者とランチが結びついていない現状があり、顔見知りの高齢者にも再度周知を行った。 ②-3 「元気はつらつ」（介護予防教室）で包括とランチの周知を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・前年度と比較し、年間の相談件数1.15倍、相談実人員1.05倍と微増した。 ・近医から直接相談に繋がった。 ・地域の活動では、ランチと認識してもらうことにより、総合相談に繋がった。	
今後の課題	介護予防事業や地域の居場所等に関心のない層へのランチの周知がまだまだ不十分と考える。 問題が顕在化する前段階からの関わりやランチの周知について、次年度は一層幅広いネットワーク構築を目標に取り組んでいきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月25日（木）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	どのランチにも言えることだが、ランチの周知は難しい。少しずつランチへの相談が増加しているのは活動の成果が出てきていると考える。 ランチの活動では地域住民と直接関わることが多い、継続しての活動を希望する。 近医からの相談があったことは相談窓口として認知されてきている。 ヘルパー利用者より、ランチを身近に感じてきている人が増えている印象あり。周知啓発活動により、周知が広がってきているのではないかと。 区内イベントの参加者増加に向けての取り組みは評価できる。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

課題対応取組み報告書

名称	浪速区日本橋地域総合相談窓口
提出日	令和6年7月10日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	・地域との連携強化～早期対応していく為の体制づくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・かかりつけ医をもつひとり暮らし高齢者、認知症高齢者の一方で、長期間、医療機関に受診していないひとり暮らし高齢者、認知症高齢者が存在する。本人の心身の状態や生活環境が重篤化する前に、常日頃から、訪問を含む地域活動に参加し、顔なじみの関係づくりに努め、支援が必要な時に医療機関や介護福祉サービスに直結する枠組み作りを築いていく必要がある。	
対象	・恵美、日東、日本橋、新世界	
地域特性	・都市部の中にあり、子どもの自立などで高齢者のみになった世帯、他地域から移住して来たひとり暮らし世帯が多く、町会などの地域の関わりが薄く、孤立しがちである。また、近隣には繁華街があるため、街の賑わいに隠れ、実際の当事者の身体状況や生活環境の情報が掴みにくい地域である。	
活動目標	・日頃の訪問を含む地域活動に参加することで、顔なじみの関係づくりと総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の存在・活動の周知を行い、早期の支援がしやすい環境づくりを目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	1 地域福祉サポーターと定期的に地域の見守り訪問活動を行うことで、顔なじみの関係づくりを図り、ひとり暮らしの高齢者、認知症高齢者の早期支援に繋げるよう、努める。 2 地域の活動に積極的に参加し、地域の高齢者との顔なじみの関係づくりを目指す。 3 高齢者が介護福祉サービス利用を希望した際、円滑にサービス利用に移行できるように、地域の医療関係者や介護福祉サービス事業者と本人の情報共有や情報交換の頻繁に行い、関係を密に図る。 4 3の活動をより良い支援に反映するために、ランチだけで、支援活動をするのではなく、地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム（以下オレンジチーム）等と常に連携を密にする。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1及び2の活動により、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者世帯の方々と、少しずつコミュニケーションが進み、当事者の方々が健康面などで本当に困っていることを、以前と比べて訴えて頂けるようになり、医療や介護福祉サービスに繋がりがやすくなった。 3の活動により、ランチが地域の医療機関と介護福祉サービス事業者とこまめに繰り返し情報共有や情報交換を行うことに努めたことで、支援の円滑な引継ぎが進むだけでなく、逆に医療機関や介護福祉サービス事業者から、支援が必要な方を紹介して下さり、速やかな医療や福祉サービスの手続きを進める事が出来た。 3の活動がランチの独りよがりな支援にならないよう、常に地域包括支援センターやオレンジチームと密に連携をとる事で、当事者が不利益を被らないよう適切な支援に努める事が出来た。	
今後の課題	・ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の金銭管理能力が衰え、支援の開始時には既に、家賃や光熱費の滞納等、自ら金銭管理をして生活を行うことが出来なくなっている場合があるので、本人にあんしんさぽーと事業や成年後見人制度の活用を分かりやすく根気よく説明し、支援する必要がある。高齢者世帯の中には、本人が自分自身をどう支援してもらったら良いか分からない場合や家族が引きこもり状態など複雑な家庭環境に置かれている場合、支援が難しくなるので、本人だけでなく、家族に支援が必要になった場合でも、困らないように、多様なネットワークや様々な社会資源とつながりを持つ必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月25日（木）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	顕在化する前段階から難しい活動となるが、粘り強く今後も活動継続をしてほしい。今後の課題へのアプローチに期待する。 日本橋ランチの担当地域は、単身世帯が多く、また生活保護受給者が多い地域。生活支援課と協力して活動している。顔のみえる関係づくりを行っていることは評価できる。今後も協力をしてほしい。 介入難しいケースもあると思うが、コツコツと関係を作っていく様子が報告でわかった。顔なじみとなるための活動はとても大切なことで輪が広がることを期待をする。 区民センターでの区内イベント開催時は、日本橋ランチは地域的に距離があり、交通手段も不便な点が課題としてあげられる。
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	生野区大池地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月26日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	・高齢者の孤立化予防と支援が必要な高齢者の早期発見 ・地域住民が早期相談できる関係づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・もともと近所づきあいが密な地域である。ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者のみの世帯の増加、高齢化や認知症・精神疾患の進行に伴い、住民同士の関係悪化やトラブルが発生することがある。 ・一方、集合住宅の町会未加入のひとり暮らし高齢者は近所付き合いがなく、心身の状態が悪化したり、日常生活に大きな支障が出てから、ようやく相談につながるケースもある。 ・在日外国人 (特に在日コリアン) の方が高齢化に伴う生活・心身の変化が生じ、支援が必要になってきている。	
対象	地域在住の高齢者 (特にひとり暮らし世帯、町会未加入世帯)	
地域特性	昔ながらの木造住宅が密集しているエリアがあり、長年住んでいるおられる方が多い。家内工業が現存する地域であり、高齢化が進んでいる。 また、外国人人口割合が生野区全体と比較して、中川、御幸森園域ともに高い割合になっている。	
活動目標	・地域活動へ積極的に参加し、地域住民から相談しやすい関係づくりを構築する。 ・圏域内の町会未加入の高齢者世帯に対しては地域包括支援センター (以下「包括」という) と協働で周知活動や実態把握を行う。 ・支援が必要な高齢者の早期発見・早期対応に努める。 ・地域住民に認知症の正しい理解と情報を広め、認知症になっても安心して生活できる地域づくりを目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	・熱中症予防啓発訪問 中川・御幸森の高齢者宅へ町会役員・生野区社会福祉協議会、鶴橋包括、福祉コーディネーターと協力し戸別訪問。その際、併せて総合相談窓口 (ランチ) (以下「ランチ」という) の周知活動を行った。 ・町会で開催される地域活動 (いきいき百歳体操やサロン、喫茶) への参加 地域住民と顔の見える関係、相談しやすい関係を構築するとともに、介護保険関連や社会資源に関する情報提供や手続きの支援を行った。 ・オレンジカフェ再開 新型コロナウイルス感染症感染予防のため中止していた中川オレンジカフェを再開、集いの場、認知症予防や認知症についての正しい理解につながる情報を提供していく。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・熱中症予防啓発訪問 訪問時に支援が必要であると思われる世帯については、後日戸別訪問を行ったことで、早期介入につながった。 また、圏域会議にて情報共有を行い、地域高齢者の実態把握と課題抽出につなげることができた。 ・町会で開催される地域活動 (いきいき百歳体操やサロン、喫茶) への参加 生活上の相談を気軽にしていけるような関係づくりを心がけ、社会資源の情報提供や介護保険サービス、いきみんお守りキーホルダー、自動通話録音機の無償貸与、ご近「助」パワフルサポート事業等への申し込みにつなげることができた。 ・オレンジカフェ再開 外出の機会、居場所、他者との交流、「楽しみ」を提供し、認知症予防に関心を持っていただくためのきっかけづくりを行うことができた。また、町会未加入の高齢者へも周知を行い、コロナ前の参加人数は10名程度であったが、再開後は20名近くの参加があった。	
今後の課題	・包括・ランチの周知を継続する。 ・町会未加入の高齢者へのアプローチとして、情報収集と状況把握を行う。 ・オレンジカフェを継続開催し、地域住民の認知症に対する正しい理解につなげる。 ・在日外国人高齢者が地域で孤立することがないように、相談につながりやすい関係を構築する。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月19日 (金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	包括や地域関係者と熱中症予防啓発訪問を行うとともに、ランチの周知活動を行っており、早期相談・早期介入につながっている。 積極的に地域に出て、地域の会館などで地域役員や参加者との関係構築を行い相談しやすい体制づくりに取り組まれている。 * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	生野区生野東地域総合相談窓口
提出日	令和6年6月26日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
活動テーマ	社会問題になりつつある、複合的な課題を抱えた世帯の支援について	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域ケア会議では、高齢で認知症の親と障がいを抱える子の世帯が多かったことから、地域には相談窓口が分からず支援に繋がっていない世帯があると想定される。 今後の支援において総合相談窓口の周知と多職種連携が必要である。	
対象	担当圏域内の高齢者および地域住民、関係機関	
地域特性	生野区内でも特に高齢化率が高い地域。文化住宅や商店街、銭湯など昔ながらの街並みが残っている。一方、新たな住宅も混在。活動や行事は盛んで、隣近所の交流も残っている。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)の周知活動をおこなう。 ・高齢・介護分野以外の多職種との連携を図る。 ・地域住民に対して、認知症の理解を深める。 ・地域役員との関わりを深め、協力し合える関係性を構築する。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ●生野・西生野・林寺連合での戸別訪問の実施 民生委員ほか地域役員、地域包括支援センター (以下「包括」という) と共に、戸別訪問を実施。熱中症予防の周知と共に、総合相談窓口を案内している。また、同時に地域の実態調査をおこなった。 ●認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 住民や当事者の認知症理解を深める事を目的とし開催。講座を開き、楽しみながら学べる場を意識し構成した。 ●多職種との連携 認知症が疑われる方に対しては認知症初期集中支援チーム (以下「オレンジチーム」という) と、障がいを抱える方の世帯に対しては相談支援専門員と協働し、包括と連携・情報共有を図りながら支援にあたった。 また、オレンジチームが開催している事例検討会へ参加し、認知症当事者に対する支援の視点を得ている。 ●総合相談窓口の広報・周知活動 ・まちかど相談 (区役所前) の開催 ・ランチ広報誌「つなごう」の作成と活用 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ●生野・西生野・林寺連合での戸別訪問の実施 地域役員、包括と協働で、75歳以上の世帯を中心に合計約400世帯を訪問した。地域役員との関係が構築されている方が多く、スムーズな聞き取りから詳細な実態把握に繋がった。しかし、日頃から地域との関わりが希薄な方に対しての状況把握の難しさがあった。また、相談があった際には個別に対応し、必要な支援に繋がっている。 ●認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 2部制 (1部: 講座・2部: カフェタイム) にて開催。1部の講座では認知症予防や認知症に対する理解を深めていただく事ができた。2部ではそれぞれが思い思いに話し合う場となり、参加者からは「楽しめる場所があり嬉しい」「友達を連れてきていい? 」といった声が多数あった。 ●多職種との連携 認知症でひとり暮らし高齢者の支援について、役割を分担し、密に情報共有しながら支援にあたった。症状が進んでいたが、信頼を得る事ができ、スムーズな関わりを持つ事が出来るようになった。 両親が高齢者で、障がい(精神疾患・知的障がい)を持つ子がいる世帯の支援では、課題が山積していたが、区役所、包括、ケアマネジャー、相談支援専門員と協働し、チームとして世帯全体の支援に当たる事が出来た。 ●総合相談窓口の広報・周知活動 区役所前にて「まちかど相談」を開催。これまで年1回であったところを周知効果を実感できた事から、令和5年度では2回開催 (6月・10月) した。しかし、ランチを知らないという方が非常に多いという調査結果であった。 ランチ広報チラシを作成 (年4回発行) し、目に留まるような工夫と興味を持てるような内容を掲載している。会館や医院・薬局などへ配架している。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や近隣住民との関わりを深める。特に関係性の希薄な方との関係構築は課題である。 ・今後も認知症高齢者の増加が見込まれている事から、認知症を楽しみながら学べる場を今後も提供していく。また、認知症当事者の変化に気を配りながら状況観察し、早期対応に努めていく。 ・ランチの知名度がまだまだ低いことは大きな課題。知っていただくための広報活動をおこなう。 	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和6年7月19日（金）

専門性等の該当
（※該当個数は問わない）

地域性

継続性

浸透性

専門性

独自性

評価できる項目（特性）
についてのコメント

* 今後の取組み継続に向けて、区
地域包括支援センター運営協議会
からの意見等を記載。

地域住民の認知症への理解促進や啓発に向けて、認知症カフェの構成内容を工夫されている。参加者から友人を連れてきたいといった声も聞かれており、参加者の満足度も高い。
引き続き、地域住民に対する認知症啓発の取組みを継続していただきたい。